

ジャズの祭典「JAZZ AUDITORIA 2013」で、 多くの子どもたちが再生可能エネルギーを体験

ゴールデンウィーク前半の4月28日～30日、この春オープンしたばかりの東京・神田淡路町の商業施設「ワテラス」でJAZZ AUDITORIA 2013（ジャズ・オーディトリア2013）が開催されました。たくさんのジャズファンが集うこのイベントで、そらべあ基金は「そらべあグリーン電力証書」の使用を提案し、一部の電力のグリーン化を実現させました。またそれに伴い、来場した家族や子どもたちに、実際に再生可能エネルギーに触れていただけるイベントブースも出展しました。

3日間とも晴天に見舞われる絶好の発電日和のなか、テント前には小型の太陽光パネルとバッテリーが置かれました。特設の充電スポットとなったそらべあ基金ブースでは、目の前で作られた電気で携帯電話や小型ゲーム機が充電できることを、訪れる人たちに体感してもらいます。

そのほか参加型のワークショップとして、ペットボトル風車の工作教室も実施。風車にモーターとLEDライトを取り付け、風の強弱によってライトの点灯時間が変わるという体験を通じて、風力発電の仕組みをわかりやすく伝えることができました。

参加した子どもたちからは、「こんなにうすい板で電

気が作れるのが不思議」「風で発電できるのがすごい」という声が聞かれました。また、振動発電など、ほかの再生可能エネルギーを使った発電ワークショップも体験してみたいという意見もあり、こうした意見を取り入れながら、今後もたくさんの教育プログラムを作っていく予定です。



上：そらべあ基金の被災地支援活動の一貫として、福島県南相馬市の小中学校マーチングバンド「Seeds+」をこの日のステージに招待。ワークショップにも参加しました。

下：ペットボトル風車がいちばんよくまわる風向きを調査中！

twitter や facebook でも最新の情報を発信しています！

そらべあ基金 twitter
http://twitter.com/solarbear_staff

そらべあ基金 facebook
<https://www.facebook.com/solarbear.staff>

そらべあ基金
事務局の
つぶやき

そらべあサポーターズクラブのみなさま、はじめまして！ 4月よりそらべあ基金事務局に加わりました、湯山日和（ゆやまひより）です。今年、大学を卒業したばかりで、在学中は環境学を専攻し、主に「持続可能な社会をつくるには？」をテーマとした環境政策などについて学んでいました。どうぞ、よろしくをお願いします！

さて最近、そらべあ基金では、ある小学校で環境教育授業「そらべあスクール電力プロジェクト」を行いました。「そら」と「べあ」が登場する環境教育DVDを上映したり、子ども達自身で太陽光発電を作ったり、それを使って楽器を弾いてみたり——。参加した子ども達からは、「太陽の光でこんなことができるんだ！」「電気って作るのが大変なんだね」という驚きや発見の声が寄せられました。その感想を聞きながら、「知らなかったことを知ること」が環境問題への意識を変え、問題解決への取り組みにつなげていくことが大切なのだと感じました。次号では、プロジェクトの詳細をお伝えしたいと思います。ぜひ、ご期待下さい！



そらべあサポーターズクラブ

プレミアムサポーター：ソニー損害保険(株)
オフィシャルサポーター：ソニー(株)、ソニー生命保険(株)、ソニーマーケティング(株)
サポーター：(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメント、(株)ホンダソルテック、(株)毎日新聞社
応援団：6社
個人・ファミリーサポーター：67名
(2013年6月30日現在)

読み終わったら、捨てずに回し読みしてね。



そらべあ便り vol. 16

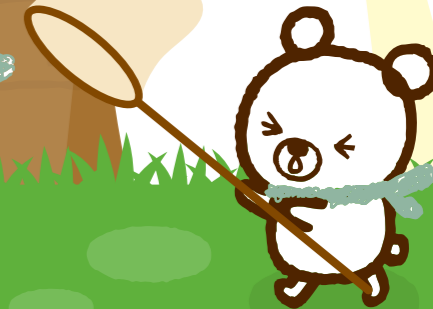
2013年6月発行
編集：加藤聡
デザイン：小池隆夫

NPO 法人そらべあ基金
〒105-0004
東京都港区新橋2-5-6
大村ビル8F
TEL：03-3504-8166
FAX：03-5157-3178
<http://www.solarbear.jp>

そらべあ便り

Sorabear Newsletter | Vol.16

ニッポンの夏
ソーラーの夏
号



©Shinzi Katak

www.solarbear.jp

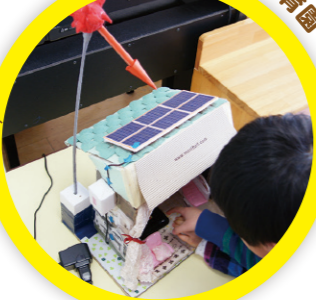
REPORT

そらべあスマイルプロジェクト そらべあ発電所完成記念式典

青葉幼稚園の子どもたちからお礼のお手紙が届きました。こちらこそありがとうございました！

先生たち手作りの太陽光発電設備の模型で勉強中

岩手県滝沢村・元村保育園



香川県高松市・中野保育所



はっぴ姿で元気よくソーラン節を披露



記念プレートを園児たちが「ばしゃり」

福島県南相馬市・青葉幼稚園



今年1月～3月、岩手県滝沢村、福島県南相馬市、香川県高松市の3ヵ所の幼稚園・保育園にそらべあ発電所が寄贈され、それを記念した式典が盛大に行われました。

その1つ、南相馬市の「青葉幼稚園」は、福島第一原発の事故で緊急時避難準備区域に指定され休園していましたが、2011年9月末の解除と、保護者の協力による懸命な除染活動により、現在は再開にこぎ着けています。

式典当日は、80名の園児が全員参加。子どもたちは5曲もの歌と踊りを披露してくれました。とりわけ印象深かったのが、嵐の『ふるさと』という歌です。ふるさとを愛する人の想い。離れたくないのにふるさとを離れなければならない人の想い。そして誰もが心に持っているふるさとの風景――。

南相馬市は震災後、多くの人が町を離れました。園の再開時に20人程度だった園児も、80人にまで戻りましたが、それでも震災前の3分の1です。被災地で聴く『ふるさと』に、さまざまな想いが込み上げてきて、多くの大人たちが涙を流していました。

震災と原発事故の影響が残る地での式典でしたが、子どもたちは強くたくましく育っており、元気と感動に満ちあふれたイベントとなりました。

REPORT

東京造形大学×そらべあ基金 そらべあ環境ワークショップ [シャローム保育園/豊川保育園編]

そらべあ基金理事である山際康之東京造形大学教授の研究室が運営するエコプロジェクトでは、当基金と共同で「そらべあ環境ワークショップ」の企画、教材開発、開催運営を行っています。これまでに5つの保育園・幼稚園で、850名以上の子どもたちに、そらべあの人形劇を中心とした環境授業を実施してきました。

今回も、2月25日に神奈川県横浜市のシャローム保育園、3月22日には東京都北区の豊川保育園でワークショップが開催され、2ヵ所で計53名の年長生が参加しました。

劇が始まると、いま北極で起きている異変について話し始める「そら」と「べあ」。子どもたちはその様子を真剣に見つめます。やがて、北極の氷が割れ、お母さんと離ればなれになって、悲しんでいるそらべあの前

に、シロウサギ、ワモンアザラシ、シロフクロウの3匹の動物が現れます。3匹は、氷が割れてしまった理由を、そらべあ兄弟に教えてくれたのでした。

ちなみにこの日のワークショップは、大和ハウス工業株式会社の「エンドレス募金」のサポートのもと行われ、「家族一緒にお風呂に入ろう」「みんなで同じ部屋に集まって過ごそう」といった、家で過ごす際の省エネアイデアを、学生自らが考えてくれました。そしてこれらのエコアクションをわかりやすく理解するための歌やダンス、ゲームを、参加者みんなで楽しみました。

最後はみんなで記念撮影。そらべあの涙も止まり、子どもたちの表情もみんな笑顔にあふれています。東京造形大学のみなさん、参加された園児のみなさん、お疲れさまでした！

そらべあの人形劇、どうだったかな？ エコアクションを続けてみてね！



sorabear
そらべあ
calendar
2013



©Shinzi Katoh

7

8

9

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					